

現場の失敗と
その反省
⑪-10

溜池堤防改修工事での失敗

1. 工事内容

当初は昭和53年溜池堤防改修工事で堤防・底樋・斜樋を設置する工事であった。補修工事は、平成19年12月施工で余水吐と放水路の敷張コンクリートの部分補修及び土砂埋戻工事であった。

2. 工事の経緯

昨年の11月初旬に、当社が施工した工事でのことで一般の方から電話があった。今から27年前のある公共事業で、私が主任技術員を担当した溜池堤防改修工事についての事であった。その人は当時の溜池の水利関係者であって、それで当社を覚えていて、連絡してきたのだった。話の内容というのは溜池の余水吐付近で水漏れがあり、公共工事として修理してもらったが、水漏れが改善されてなく、発

注者側が再修理に手間取っているので、当社で一度、現場を見てほしいと言う事だった。

当時は、環境問題について余り発注者からは、指摘されることはなかったが、溜め池の関係者から、立木や野草など、種類によって伐採しないように注意を受けていた。工事が進捗し、堤体も8割完了した時点で、余水吐工の施工に当り、それに接続する放水路の計画位置に何本かの桜の木があった。それを水利関係者に相談して、残す木と伐採する木を決めてもらった。発注者の監督員にもその事を報告して、残す木と植え替え位置を確認し、了承を得た。そして無事、工事が完成し、竣工検査も終わって現在に至っている。早速、水利関係者と出会って、いっしょに調査に出かけた。行ってみると修理した工事は、堤体の池側に布型枠

でモルタル張工を、余水吐入り口を囲むようにして設置していた。これは池側からの水の流出を防ぐ工法だが、効果がなかったらしい。周辺をよくみると、余水吐から放水路に続くコンクリート擁壁沿いに、当時残した桜の木が5本立っていた。

しかし、2本は枯れていて根のほうも腐っている。踏んでみると穴が空き、下方に空洞が出来た。その部分をスコップで広げて見ると、放水路のコンクリート擁壁の裏から、敷張コンクリートまで空洞が続いていた。根っこが腐って空洞になったのであった。たぶん池まで達していて、そこから水が漏れ出ていると推測された。それから一週間後に、当時の発注者から連絡があり、その溜池の補修の見積を出せということだった。

3. 反省点

今考えると、当時、木は成長して大きくなるとは思っていたが、根が張って放水路の下から、余水吐を通して池側にまで伸びるとは、考えもしなかったし、それも枯れて腐ってそこから水が漏れるとは予想もできなかった。今後、このことを参考にして、工事をしなければならないが、現在は環境問題で植栽がいろんな工事で利用されているので、十分検討して施工していかなくてはならないと思う。



写真-1 補修前の立木



写真-2 腐った根



写真-3 補修後の敷張コンクリート